

工業部会通信

(発行) かながわ経済新聞合同会社
 〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3
 商工部会館本館1階
 ※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞
 KANAKAI

会員企業、続々と新事業 コロナ禍に負けず

工業部会の会員企業が続々と新事業を立ち上げている。新型コロナウイルス感染症による景気低迷にも負けず、自社の得意技術や設備を生かし、新製品・新サービスの創出に注力している。いずれもアウトソーシングを見据えている。

東鈴紙器 段ボール製ベッド開発 災害用、組み立て10分



オールダンボール製で使い勝手を追求

東鈴紙器(市中央区小町通)は、避難所などで使用する災害用ベッドを開発した。段ボール製で使い捨てできるもので、普段は収納し、使用時には10分程度で組み立てられるのが特徴だ。既存の製造設備を活用し製品化した。

同社ではアフターコロナを見据え、現在、新規事業を育成している。中でも防災分野はニーズが高まるとしており、その第一弾として発売した。有事の際、迅速に組み立てられるよう構造をシンプルにした。ガムテープ

「ついでに」をのせれば顔を隠せる対策になる。価格が3980円(税別、送料別)。避難所で使用を想定し、今後は自治体などに提案していく。

工場設備を定期点検 故障リスクなど回避

中村電機

中村電機(南区大野台)は、企業の生産現場などを定期的に訪問し、生産設備を点検する新サービスを始めた。

プレス機械や金属加工機械の制御盤などは、電気部品が経年劣化するため、交換が必要になる。同社が訪問し定期的なメンテナンスをすることによって、故障して動かなくなるリスクが回避できるため、操業維持につながるという。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大による景気低迷などが理由で、新規の設備投資に踏み込めない企業が少なくない。



ただ、設備が老朽化したままだと、いつかは動かなくなり、製品が供給できないリスクが高まる。

中村勝彦社長(写真)は「メンテナンスをすることで設備が蘇り、リスク回避だけでなく、自動化や省力化への第一歩にもなる」と説明する。

点検費用は3万円(相模原市内は交通費込)。異常があれば別途費用で部品交換する。

MEMO テクノス 卓上型UV殺菌装置を開発 家庭や飲食店向け

MEMO テクノス

殺菌装置II写真IIを開発。「ウイルススエアー」のブランド名で展開していく。

紫外線はウイルスや菌のDNAそのものを破壊する。UVランプは新型コロナウイルス対策でも有効とされ、米ニューヨークの地下鉄で車両の消毒作業にも採用されている。

同装置の本体はA4用紙2枚分の大きさ。そこに15ワットの専用殺菌灯(UVランプ)を内蔵。室内の空気をファンで取り込んで殺菌する。天井の高さが2.5メートル、広さ6畳分の場合、約1時間9割以上を除去するという。電気代は24時間稼働で8・6円程度。設置場所によって縦置きと横置きが可能だ。

価格はオープン(想定価格9万円程度)。直販のほか、代理店を通じて各種施設への提案や家電量販店の店頭販売を目指す。

副部長コラム 「工業よもやま話」

今回は「会話力と経営者」について話します。人と動物との大きな違いは言語を持っていることです。人は生まれてから36カ月ほどで15000、30000の語彙(こい)を覚え、大人とも会話ができるようになります。乳幼児期の言語獲得能

真の体験から生まれる「説得力」

うになります。ただし、この時点では、親との会話や絵本から得た「疑似体験」から得た言葉が数多く含まれて

います。これがそのまま大人になると厄介なことになります。実体験ではなく疑似体験のみで多くを語る大人になります。私は「頭でっかち」と呼

物園で象を見せると泣き出しました。サーカスに連れて行ったときも同様でした。要は疑似体験と実体験とは大きく異なるのです。

話を戻しましょう。経営者にとって「コミュニケーション」は何よりも大切です。今では人のコミュニケーション手段は

飽き飽きして「頭でっかち」と思うでしょう。それに、真の体験から得た言葉には説得力があります。ただし自分のこと

メールやLINE、SNSなどありますが、やはり「会話」が大部分を占めます。その会話で疑似体験に基づいた話ばかりをしていたら、相手は

ばかり話すと会話になりません。確かに、新聞や本などを通じて疑似体験するのも大切です。でも当事者自身の体験からの言葉はもっと深みがあり臨場感があるのです。

コロナの後、たくさんの人と交流するのはもちろん、見る・聞く・話すの実体験で会話力を磨いてほしいと思っています。(湘南デザインCEO)



さあ、5年後の未来を見に行こう。

新規会員募集中 近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会